Will

KENSHOKAI COLLEGE OF HEALTH AND WELFARE



専門学校 健祥会学園 同窓会会報 | ウィル

同窓生ロングインタビュー

心に残る出会いに導かれて歩んできた
子どもたちの可能性に夢中で向き合う日々
生まれてきたことの価値をたくさん見出すために

理学療法学科 5 期生 加藤 志帆さん …… 4

MESSAGE

アフターコロナでの健祥会学園教育と同窓会
専門学校 健祥会学園 校長 武田 英二 …… 2
立ち止まることなく進化と挑戦を！
健祥会グループ 理事長 中村 太一 …… 3

＋UPDATE 卒業生近況報告 …… 8
同窓会勉強会報告 …… 10
卒業生がナビゲーター オープンキャンパス
同窓会総会 …… 11
NEW FACE | 編集後記

2021 MARCH VOL.14

アフターコロナでの健祥会学園教育と同窓会

専門学校 健祥会学園
校 長　武田　英二



1974年3月 徳島大学医学部医学科卒
徳島大学医学部付属病院 小児科、高松市民病院 小児科、米国インディアナ大学医学部などを経て、1992年より徳島大学医学部教授（病態栄養学）。栄養学科長、徳島大学病院「食と健康増進センター長」、21世紀COE「ストレス制御をめざす栄養科学」拠点リーダー、国立大学法人徳島大学大学院教授（臨床栄養学部門）、同大学教育研究評議員などを歴任。2014年4月 専門学校 健祥会学園（旧徳島健祥会福祉専門学校）校長に就任。
学位／医学博士（徳島大学）
受賞等／1988年 康楽賞（財団法人康楽会）・1998年 日本ビタミン学会賞・2004年 日本栄養・食糧学会賞・2015年日本病態栄養学会アグライア賞

コロナ禍の社会

新型コロナウイルス感染症の問題は、感染によって、経済の疲弊によって、プライバシー侵害によって、命が脅かされることです。不顕性感染者を判定できない状況で、感染者や感染者が出た大学やライブハウスがバッシングされました。

コロナ禍の社会では、多くの労働者が休業や解雇、さらに新卒採用者は採用内定の取り消しになっています。しかし、本学園が養成する医療および介護や保育の専門職はますます必要とされています。それは、厳しい社会の中で人間を護る仕事であり、社会で求められているからです。皆さんが「専門学校 健祥会学園」の同窓生として国家資格を取得され専門職に携わっておられることは、人生を歩む中で正しい選択をされていることになります。

コロナ禍での教育

同窓生の諸先輩方には学生の教育や実習等でお世話になっており厚くお礼を申し上げます。とくに温かいご指導の中で、飛躍できた学生を見ると、ありがたい気持ちでいっぱいです。社会の発展に伴って専門職に対する期待は、ますます大きくなっていますが、習得する知識や技術は多くなり学習内容は一段と深くなっています。

コロナ情報が錯綜する中で、令和2年前期の授業や実習は、皆様のお蔭で何とか乗り越えることができました。理学・作業療法学科はiPadが導入されて3年経過していたことでスムーズに遠隔授業ができました。保育学科は遠隔授業と対面授業を組み合わせました。介護福祉学科は当初は遠隔授業が認められず、対面授業を行いました。実習は実習施設に迷惑をかけられないので、学外実習と学内実習で何とか乗り越えました。

アフターコロナでの教育と同窓会

1. 文部科学大臣から職業実践専門課程として認定されており、同窓会会員の知識や技術が必要です。
2. 対面授業や実習が十分にできないときのために、技術、考え方、知恵を修得する遠隔教育の充実が必要です。
3. 現在行っている共同研究を含め、同窓会と学校との連帯と協調が学生の支援に必須です。

これからの未来は予測できないことが起こります。だれもが、自分が生きる意味や価値を見いだし、人生の目的や生き方を絶えず考えておくことが必要です。専門職として知識や技術の習得に打ち込み、一生懸命コツコツ努力して人格を磨いていくことがますます求められます。

KG
SHOKAI GAKUEN・O
mongakko



立ち止まることなく 進化と挑戦を！

健祥会グループ

理事長　**中村　太一**

1996年東海大学教養学部生活学科生活経済学課程卒
2013年健祥会グループ理事長に就任。2016年11月～2019年10月、徳島商工会議所第25代会頭、徳島県商工会議所連合会会長、日本商工会議所総合政策委員会委員を務める。その間、徳島県総合計画審議会委員や徳島市都市計画審議会会長、徳島地方最低賃金審議会委員、日本貿易振興機構徳島貿易情報センター会長、関西広域連合協議会委員など多くの国・県・市の審議会や委員会の委員として力を注いだ。また、2019年6月徳島県産業教育振興会会長に就任。産業教育への支援に加え経済界と教育関係者との交流をはかるべく尽力している。徳島県ゲートボール協会会長、四国地域協議会会長、公益財団法人日本ゲートボール連合理事としてゲートボールの普及にも携わる。

同窓生の皆様には、日頃より本学園と同窓会活動にあたたかなご支援ご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

昨年は世界中がコロナに明け暮れた一年でした。皆様も職場での対応に追われ、ご苦労も多かったことと思います。本学園でもコロナ対策として、同窓会総会の開催を見送り、学園祭も規模を縮小して在学生のみで行いました。皆様には多くを発信できず、心苦しく思っています。

今、人々は叡智の限りを尽くしてウイルスと闘っていますが、ある程度の収束を見たとしても、おそらく私たちの暮らしが元に戻ることはないでしょう。私たちは感染症に備えながら、ニューノーマルを生きていかねばなりません。

一方で、この度のパンデミックは、いのちの尊さ、家族の素晴らしさへの気づきをもたらし、医療・介護そして教育・保育が社会を支える必要不可欠のものであることを強く認識させてくれました。エッセンシャルワーカーとしてのそれぞれの役割に誇りを持って、さらに専門性を磨いていってくださることを期待いたします。

新型コロナ対策で歳出は大きく膨らみ、税収の下振れも見込まれる中、国家の財政運営が厳しさを増すことは必至です。75歳以上の医療費の自己負担増も示されたように、社会保障への切り込みも容赦なく行われるでしょう。事業者にとってはサービスの高品質化と効率化が課題であり、生産性の向上をめざして、医療・介護現場にも、さらにICTの活用や業務改革の波が広がると思われます。つまり、皆様方には高い専門性に加え、先端技術を使いこなす力や経営の視点も必要であり、「生涯が学び」なのです。

今、専門職への需要は高まる一方であり、本学園への求人は介護福祉学科54・9倍、保育学科117・4倍、理学療法学科91・3倍、作業療法学科100・7倍（2020年3月）にも上っています。しかし、少子化の影響は非常に大きく、志願者は減少の一途です。

そんな中、優秀な学生を確保するために、2021年度より理学療法学科・作業療法学科の入学金・授業料を大幅に値下げしました。3年間で80万円の減額、中国四国で最安となります。

同窓生の皆様には、整った教育環境、手厚い教育内容、さらに卒後教育への注力といった本学園ならではの強みをぜひとも広く社会へ発信していただき、志願者増にもお力添えいただきますよう、お願い申し上げます。

コロナ禍を経験し、世界はさらに不確実性を増しましたが、どうか立ち止まることなく進化と挑戦を続けてください。医療・介護・保育の仕事は、専門性とやさしい心を以って人に向き合い、その人生に光をもたらす素晴らしい仕事です。現場での皆様方の活躍が後進の刺激となって、この道をめざす高校生、そして学び直しで専門職をめざす社会人が増えることを願っています。

本学園も、どんな時代にあっても、「優しい心と実践力を持った専門職を育て、社会の安心を支える」という建学の志を高く掲げ、挑戦を続けるとともに、いつまでも皆様方の頼もしいプラットホームであり続けられるよう、進化し続けてまいります。



特定非営利活動法人あかねの和　「とおりゃんせ3」管理者

加藤志帆さん 35歳

2007年3月、専門学校 健祥会学園（旧徳島健祥会福祉専門学校）理学療法学科卒業。4月 医療法人徳寿会 鴨島病院入職。県内各地の県立支援学校で特別非常勤講師を歴任。2014年4月、特定非営利活動法人あかねの和に転職。2017年、事業所「とおりゃんせ2」および「とおりゃんせ3」の管理者となる。現在、事業所運営の傍、巡回支援専門員として、石井町の子育て支援に精力的に携わっている。2020年からは非常勤講師として母校の教壇にも立つ。

心に残る出会いに導かれて歩んできた子どもたちの可能性に夢中で向き合う日々生まれてきたことの価値をたくさん見出すために

高齢者の通所介護から赤ちゃん教室まで、様々な事業を手がける特定非営利活動法人あかねの和。その事業所の一つで、多機能型 児童発達支援・放課後等デイサービスを行う「とおりゃんせ3」に、理学療法学科5期生加藤志帆さんを訪ねた。

理学療法士をめざしたのはなぜですか？

理学療法士なんて職業は知らなかったし、高校生の頃はパイロットになりたいと思っていました。思っていたんですが…高2のとき、何の気なしに病院の1日体験に参加したんです。友達に誘われたというだけの理由で（笑）。そこで、脳性麻痺の子どもへのリハビリを目の当たりにし、こんな世界があるんだと大きな感銘を受けました。高3で再び見学に行き、気持ちが固まりました。

何に対してそんなに感動したんですか？

小児のリハは、バルーンの上に乗っかって、本当に楽しそうだったこと。成人のリハは、鏡の前で療法士と患者さんが並んで単純なトレーニングをしている姿があまりに真剣でかっこよかったこと。でもね、何よりも感動したのは子どもに向き合っていた理学療法士さんの言葉なんです。「この子たちの世界を広げてあげるのが私たちの仕事」…この言葉に導かれてこの道に入りました。

健祥会学園での3年間はいかがでしたか？

育てるということに非常に情熱を持っておられる素晴らしい先生に担任をしていただきました。上手にクラスをまとめあげ、知らず知らずのうちにみんなで頑張ろうという気持ちにさせてくれたんです。だから、実習も国家試験の勉強も、苦しかった思い出ではなく、楽しく勉強

して、合格できたって感じです。そして先生は、合格発表のあと、職員室で泣いてくれた。とにかく先生にはとてもとても感謝しています。

就職先はどのように決めましたか？

評価実習でも長期実習でも膝疾患を担当しましたから、私は膝！整形外科で膝のスペシャリストになろうと思っていました。でも、「自分が何をやりたいか、どんな分野を極めていきたいか、しっかりいろんな現場を見て考えなさい」と先生からアドバイスをいただき、あちこち見学に行きました。その中で、理学療法士をめざすきっかけになった鴨島病院にも行ったんです。そしたらやはり小児リハが素晴らしくて、「これが私の原点だったんだ」と思い起こし、お世話になることを決めました。

鴨島病院に在職中、支援学校の講師をなさってますね

病院から派遣されて、県立支援学校で特別非常勤講師を3年にわたって務めさせていただきました。理学療法士にも小児という分野があって、そこを自分なりにしっかり学んだうえでのチャレンジでした。病院という医療の世界から出て、ひとりで教育という未知の世界に入っていくわけで、最初は非常にハードルが高かったですね。

支援学校では、理学療法士として子どもたち一人ひとりに、運動だけでなく生活全般の支援をします。日常にも生かしていただけるように担任の先生にもレクチャーします。子どもたちと私の関わりは1対1でしかないけれど、先生に実践していただければ、先生の向こうにいる何人もの子どもたちの成長に少しでも貢献できるわけですから、やりがいにあふれた貴重な経験でした。

その経験が今につながってるのですね

そうなんです。病院では、週に1回とか2回、限られた時間での関わりでしかありませんよね。でも、子どもに対しては生活の中に入って関わっていくことがとても大事だなと、支援学校に通った3年間で強く実感しました。よりよいリハビリが生活の一部になっていること。だから、経験で培ってきたことを子どもたちの生活の場で生かしたいなあと考えていました。

それを生かせる場があかねの和だったんですね

あかねの和は私が専門学校の学生だったときに、母が立ち上げたNPO法人です。「とおりゃんせ」として高齢者通所介護と一時預かり事業をやっていました。そのうちそこで児童発達支援・放課後等デイサービス事業も手がけるようになっていたのですが、あるとき、重度身体障がいのお子さんを預かってもらえないかと、3人のお母さんが揃って訪ねていらっしゃいました。なんとか力になって差し上げたかったんですが、「とおりゃんせ」には元気に飛び跳ね回る発達障がいの子もおり、そんな中で重度障がいの寝たきりのお子さんを安全にお預かりすることは物理的に無理でした。

そういう残念な経緯があったので、嘱託医の先生の医院の2階をお借りできることになったときに、多機能型 児童発達支援・放課後等デイサービス・生活介護「とおりゃんせ2」を立ち上げることになり、私が担うことになったのです。その後、人工呼吸器や酸素吸入、そして医療的ケアの必要な重度の子とそうでない子の生活空間を分けるために「とおりゃんせ3」も開所しました。



「子どもたちには可能性の芽がいっぱい」と加藤さん





障がいのあるお子さんをお預かりするって責任重大ですね

もちろん医療的ケアの必要な子をみるための研修なども受けましたし、保育士免許も取得しています。でも、健常児とされる子であろうと、障がい児であろうと病児であろうと、いのちをお預かりするという意味では重さは同じです。障がいの線引きはどこにあるんでしょう。障がい児と決めているのはこちら側ですものね。エジソンやアインシュタインもおかしな子と思われていたわけですが、世界を変えました。ここにもそんなたまごちゃんがいっぱいいます。

お子さんたちに対して何がしてあげられるとお考えですか？

薬に頼らずに改善できたらという思いで、一生懸命、脳の機能の勉強をしています。親御さんたちにとっては問題行動に見えることでも、私たちの目からすれば原因が分析できるし、原因に沿ったしかるべき発露なんです。例えば、発達障がいの子の飛んだり跳ねたりという行為は、左右の脳の機能のバランスの差の表現として出てくるんです。だから活性していない方に働きかけ、高めてあげることで、左右均等な神経のコネクションが生まれ、表現も変わってきます。右脳と左脳がどういうバランスにあるのかを知ることで、とても意味のある働きかけができるんです。

具体的にどんな働きかけをするのですか？

子ども一人ひとり、パニックになる原因も異なるので、それぞれをきちんと評価した上で、うまくコネクションされていない脳部位を見極め、そこに対してアプローチします。様々な刺激を使って、脳の弱い分野に働きかけながらエクササイズしたり、視機能に対するトレーニング…ビジョントレーニングというんですが、これを確実に行うことで発達障がいは改善できると思っています。

石井町の巡回支援専門員とはどんなお仕事ですか？

石井町からの委託で、2015年から現在までずっと、町立の保育所と幼稚園に巡回指導に行かせていただいています。子どもたちに運動指導をしたりもしますが、メインは担任の先生への支援です。発育過程の中での様々な疑問や悩みに対して一緒に考え、助言します。食べること、着替え、運動、子どもの生活全般についてです。石井町の子どもたちにすくすくと育って欲しいから頑張ってます。





子どもたちに向き合うとき 加藤さんは本当に表情豊かだ



いたるところに子どもたちの作品が飾られている
施設はとても楽しそうであったかい

学園での授業の手応えはいかがですか？

将来仲間となる学生さんたちに小児の理学療法の役割を伝えられる…とても新しい感覚です。今の学生さんたちはすごく内向きでおとなしくて、ちゃんと伝わっているのかなって心配になったりしますが…（笑）でもとにかく、少しでも小児に興味を持ってほしいなと思いながら、お話させていただいています。

これからの目標を聞かせてください

ＢＢＩＴ（ブレイン・バランス・インテグレーション・テラピー）というアメリカで研究開発された新しい分野の治療プログラムがあります。脳や神経系の症状を投薬や手術をしないで治療をするというもので、子どもたちに対しても大きな成果をあげています。これを取り入れて、脳の働きのアンバランスに働きかけ、薬を使わずに本来の自然なバランスに戻す、そういう支援をしていきたいです。このテラピーにより、小学校入学の時点で普通クラスに行けるようになるかもしれない。とにかく可能性を見つけ、引っ張り出してあげたいです。

子どもはいいサポートで大きく変わります。子どもが変われば大人も変わる、子どもへの見方が変われば親子関係もよくなる、そういう好循環の手助けができると思っています。子どもの中に可能性の芽を見るときって本当に楽しく幸せです。

ご自身のお仕事の醍醐味はなんですか？

二人目の子どもの出産のとき、ひどい出血で、意識の遠のく中、いのちについて考えました。生まれてくることって簡単じゃないんだな、あたりまえじゃないんだなということを改めて感じましたし、大切なひとつのいのちをどう育てていけばいいのかなという思いがより強くなりました。重症心身障がいの子の中には幼くして亡くなる子もいるのですが、その短い人生の中で生まれてきてくれたことの価値を見出してあげることが私の仕事なんだと思います。いのちのはじまりに関わらせていただくこの仕事には、子どもたちや親御さんからいただくものがたくさんあります。現状に満足してしまわず、いろんな活動をしながら、進化し続けたいと思います。そのためにも筋トレして体力つけて頑張ります。

ふとした出会いに心打たれて理学療法士をめざした。さまざまな出会いによりどんどん世界を広げていった。いのちの重みに向き合いながら、ひたすら明るい加藤さん。その明るさを原動力に明日へ明日へと走っている。子どもたちの可能性を見出し、伸ばし、その人生に光を当てる手助けをしたい一心で。

取材協力：特定非営利活動法人 あかねの和
徳島県名西郡石井町藍畑高畑１３１１

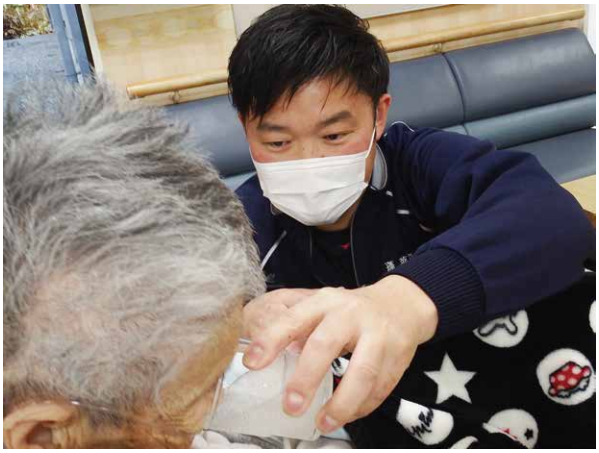


笑顔あふれる施設に

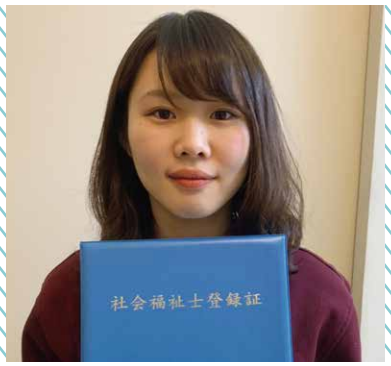
三宅 成 さん　介護福祉学科2期生

勤務先　社会福祉法人蓬莱会 特別養護老人ホーム蓬莱荘

卒業後、特別養護老人ホーム蓬莱荘に入職して２４年が経ちました。入職以前から、実習やバイトで施設の業務に携わらせていただいていたため、先輩職員さん、入所者様共に面識があり、入所者様との対話・対応、介護の技術についても特に大きな問題もなく業務に携わることができました。なにより入所者様からの「ありがとう」の一言をいただいたときの喜びや笑顔に支えられ今日まで続けてこられたと思っています。
毎日の業務に取り組みながら様々な経験を積ませていただき、現在は特養介護主任を経て特養生活相談員として入所者様やご家族様の相談・援助、また、ショートステイ担当として利用調整等に携わらせていただいております。
もとより部署関係なくチームワークが良い施設ではありますが、さらに一丸となって、よりよいサービスを提供できるよう施設全体で取り組み、入所者様の笑顔あふれる施設にしていきたいと思います。



+UPDATE
それぞれの現場で頑張る卒業生近況報告



今の私だからできる支援

宇坂 能利 さん　保育福祉学科8期生

勤務先　医療法人徳寿会　鴨島病院

私は医療ソーシャルワーカーとして鴨島病院で働いています。保育福祉学科では保育士や幼稚園教諭をめざす学生が多い中、私は在学時より社会福祉士の国家資格取得をめざしていました。受験資格として１年の実務経験が必要であるため、働きながら勉強することは覚悟していましたが、思っていた以上に大変でした。社会人１年目ということもあり覚えることも多く、はじめは毎日の仕事をこなすことに精一杯でした。仕事に慣れた頃から毎日時間を決め、勉強に取り組むようにしました。学園主催の対策講座にも参加し、志が同じ人と一緒に勉強することで理解も深まっていったように感じています。模擬試験後、勉強時間を増やし、無事合格することができました。社会福祉士資格を取得し、さらに努力をしていかなければいけないと考えていた時、県立病院で医療ソーシャルワーカーの募集を知りました。今の職場で患者さんとの関わりなどを通して経験を重ねていきたいと考えていたため、受験を悩みましたが、職場の先輩などの後押しもあり挑戦しました。無事合格することができ、4月からは県立病院で勤務することになりました。
医療ソーシャルワーカーとしてのやりがいは、患者さんが笑顔で「ありがとう」と言って退院してくれることです。私は、今まで本当に周りの方たちに恵まれ、助けられました。今度は私がこれから関わる多くの方により良い支援ができるよう、専門職として、また一人の人間としても成長できるよう今後も努力していきたいと思っています。今の年齢だからできる強みを生かして、患者さんとそのご家族が納得できる答えを出せるような支援をめざしていきます。





やりがいのある仕事

岡林（旧姓：船越）真由美 さん　理学療法学科10期生

勤務先　医療法人　倚山会　田岡病院

私は高校時代にバスケットボールをしており、仲間が怪我で苦しんでいるところをみて、何かしてあげられることはないかと思い、理学療法士になると決意しました。健祥会学園に入学し、甲子園での理学療法士の活動を見学する機会があり、よりスポーツに関わっていきたいと思いました。
田岡病院に入職してから7年間は外来と急性期のリハビリテーションに関わり、怪我をして手術を受けた患者様が徐々に元の機能を取り戻すまでの過程をたくさん見てきました。
学生や社会人で高いレベルをめざしている患者様もいれば、趣味や仲間同士のレクリエーションとしてスポーツを愛好している患者様もおり、リハビリによって復帰を果たした患者様の姿をみることにやりがいを感じています。
また、入社1年目に徳島県トレーナー協会へ入会し、3年目からは高校生女子バスケットボール部のチームトレーナーをさせていただいております。現場では怪我やスランプで悩んでいる選手が多くいます。理学療法士として怪我から復帰までのリハビリテーションはもちろん、外傷・障害予防およびパフォーマンスアップのためのトレーニング指導を行っています。選手が心身ともに強くなって最高のパフォーマンスを見せてくれたときは大きな喜びを感じます。
そして、今年は高校時代からの夢であった日本体育協会アスレチックトレーナーの試験に合格することができました。講習会は全国から熱い気持ちをもった同志が集まるので、とてもいい刺激を受けることができました。さらに、理学療法士の資格を取得してから、トレーナーの勉強をすることで、身体の構造を把握して動作を観ることができ、より競技復帰に向けたリハビリテーション、トレーニング内容を考えることができたことは非常に良かったです。
今後は講習会で得た知識をアウトプットする機会をつくり、より多くのスポーツ選手の怪我を事前に防ぐことができればと思っています。また、スポーツ現場に興味がある後輩の育成にも力を入れていきたいです。



「まだまだ」と思い続けること

三宅 輝美 さん　作業療法学科13期生

勤務先　社会医療法人川島会　川島病院（リハビリテーション室）

ここ最近、「自己研鑽」という言葉をよく耳にするようになりました。「自分自身のスキルや能力などを鍛えて磨きをかけること」という意味であり、私自身が常に自己研鑽を怠らないよう努めていきたいと思いながら、日々の臨床や研究に励んでいます。
今年で作業療法士となって早６年目となり、気づけば中堅という立場に移行していました。自分のしたいことや臨床業務に対し、達成できた事もあれば困難だったことも多く、何度も成功と失敗を繰り返してきました。その度、自分の意欲や意識を高い状態で維持することに難しさを感じる事もあり、悩む時期も多くありました。そのような時、卒後すぐに入職した職場の上司から教えていただいた「まだまだと思い続けること」という言葉を思い出し、自分を鼓舞する癖をつけています。年数を重ねていくと、自己研鑽をしなくても良いのではないか？という考えに陥り、現状に満足してしまいがちになることもあるかと思います。しかし専門職である以上、日々悩みながら常に新しい知識に目を向け、自らをアップデートしていく必要性があると考えています。そのため、上司より教えていただいた言葉は、今も私が自己研鑽を続けることができている原動力となっています。
そのような中で、今年度より私は透析病院で勤務をしており、今まで理解が乏しかった新しい知識と日々向き合い、臨床業務を行うと同時に、研究で栄養と運動能力について検討しています。現在の職場という自分を奮い立たせてくれている環境に感謝し、これからも自分らしく臨床と研究に勤しみ、現状に満足する事なく、常に前向きに進んでいきたいと思っています。



同窓会勉強会報告

専門職として常に進化し続けるために！「学び」を支える同窓会でありたい

介護福祉学科

2020年8月5日(水)13:30～15:00

アロマの香りでリラックス！ リンパの流れを良くして元気で美しくなりましょう！

●講師:介護福祉士、アロマインストラクター、リンパデトックスセラピスト
横田 操子 さん

●参加:7名

介護者自身が元気で疲れにくいカラダをつくるために、リンパの流れを良くして心もカラダもリフレッシュすることを目的に実施しました。はじめに、リンパの流れについての知識を学んだ後、アロマオイルを使って自分のカラダをケアしました。また、利用者様とできるリンパの流れをよくする体操を音楽に合わせて行い、リフレッシュすることができました。勉強会終了後は、同窓生から講師への質問がさかんに行われ、充実した勉強会となりました。





2020年9月30日(水)13:00～15:00

介護福祉の「専門性」を問い直す

●講師:日本生活支援学会会長　黒澤 貞夫 さん

●参加:会場参加40名、Web参加37名(同窓生6名)

黒澤さんは、介護福祉を人間科学として位置づけ、介護の仕事は、一生をかける価値のある仕事であるとして体系的に論じられています。介護福祉士の専門性と介護の仕事がもつ魅力ややりがいなどについて、実践例をあげながらわかりやすく講義していただきました。新型コロナウイルス感染予防として、会場参加型とオンライン配信型から選択いただける講座としました。



保育福祉学科・保育学科

2020年10月30日(金)18:30～20:00

発達障がいVR体験

●講師:教員 山地 貴子

●参加:17名

見た目には分かりづらい発達障がいをVRを使用し、感覚の特異性として「聴覚過敏」「視覚過敏」やADHD(不注意優勢型)を疑似体験しました。体験後に感じたことや自分ならどう接して欲しいかについてディスカッションを行いました。職場でできる合理的配慮について学び、乳幼児の場合は、子ども自身が特性に気付かず生活していることも確認し合いました。参加者からは、「見え方や聴こえ方を実際に体験することで、“こうして欲しい”“こうしたら分かりやすい”を考えることができた」「利用者様の気持ちが少し理解できた」等の感想がありました。自らの仕事に生かせる勉強会になりました。





※理学療法学科・作業療法学科も勉強会を予定していましたが、全国的な感染症の拡大状況を受け、やむなく中止とさせていただきました。

卒業生がナビゲーター オープンキャンパス

オープンキャンパスでは毎年卒業生にご協力願い、「仕事について」「学生生活について」「授業内容について」など、リアルな体験談を参加者の皆さんに届けています。





テーマ　現場の作業療法士の話を聞こう

■作業療法学科

【ナビゲーター】

井口 悠也 さん(徳島県立海部病院 17期生)

美馬 拓郎 さん(徳島県立三好病院 17期生)

実際の現場での働き方について分かりやすく説明していただきました。作業療法士に従事して2年目の先輩たちの話を聞くことで、参加者は卒業後の具体的な未来図が描けたのではないでしょうか。

令和2年度　専門学校 健祥会学園

同窓会総会

令和2年度の同窓会総会は、新型コロナウイルス感染症の拡大状況に鑑み、書面で実施いたしました。結果につきましては、本学園のホームページに掲載しておりますので、ご確認ください。また、役員改選により同窓会会長が藤原慶治さん(介護福祉学科1期生)から舩越稔さん(作業療法学科3期生)になりました。



退任挨拶

前会長　藤原 慶治さん

専門学校 健祥会学園同窓会会員の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平成21年4月に志賀友子会長の後を受けて同窓会会長に就任し、令和2年3月をもちまして退任いたしました。この11年間あっという間に時が経過いたしました。在任中は役員の方々、同窓生の皆様、武田校長をはじめ各学科の先生方の温かいご指導とご支援、ご協力をいただき、心から感謝を申し上げる次第でございます。

同窓会会長として入学式・卒業式などの行事や、学校関係者評価委員会などにも参加させていただき、諸先生方・在校生の皆様と関わる中で、本当に学ぶ事も多く貴重な経験をさせていただいたことに感謝しております。そして本年度、舩越稔会長にバトンタッチできましたことに、感無量の思いでございます。そしてこれからは、同窓会会員として同窓会・母校の発展に寄与する所存です。

同窓会会員の皆様におかれましては医療・福祉の中枢でご活躍され、会員皆様の努力により築かれた専門職としての活躍は同窓会にとっても大きな礎であると感じております。今後の同窓会として自主的な活動、新たな発想と活性化を期待しております。

末筆ながら、専門学校 健祥会学園ならびに本同窓会の限りなき発展と、会員の皆様のご多幸、ご健勝を心よりご祈念申し上げ、退任のご挨拶とさせていただきます。



就任挨拶

会長　舩越 稔さん

このたびの新型コロナウイルス感染症によりお亡くなりになられた方々に謹んでお悔やみ申し上げます。また、罹患された方々およびそのご家族、関係者の皆様、感染拡大により日常生活に影響を受けられている全ての皆様に心よりお見舞い申し上げます。

本年10月の同窓会総会におきまして、藤原会長のあとを受け、大役を引き受けることとなりました。

役員の方々はもちろんのこと、各学科の教職員の皆様、会員の皆様のご支援・ご協力を得て、同窓会の発展に微力を尽くして参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

同窓会は平成11年に発足し、今年度で会員数も約2,900名となっております。私は作業療法学科第3期生として入学し、まだ真新しい校舎で必死に勉学に励んだあの若かった頃から早くも19年が経ちました。私の同窓生達も今ではそれぞれの病院・施設で責任ある役割を担い活躍されているのを耳にすると月日の流れを感じます。

現在、新型コロナウイルス感染症の問題が大きく取り上げられておりますが、少子高齢化社会の問題、2025年問題、さらには2035年問題と日本における医療・保健/福祉・介護分野に課せられている課題は待ったなしとなっております。

一人ひとりの力は小さくとも本学園の特徴である、医療分野の理学療法学科・作業療法学科、福祉分野の介護福祉学科・保育学科が同敷地内で学びの場を共有できる環境にあることを強みに、在校生の皆様の相互交流の継続はもちろんのこと、同窓会会員も主となる分野の垣根を越えて、今一度一体感のなかで様々な問題を共有し、解決に向けて提案や検討が行える場としてお役立てできるよう同窓会を盛り上げて参りたいと考えております。

最後となりますが、皆様方がより一層ご健勝にてご活躍されることを、役員共々心からお祈り申し上げ、就任のご挨拶といたします。

NEW FACE　新教員紹介



介護福祉学科 教員

上田清人

これまで、介護福祉士として介護現場で介護職や相談員として経験を積んできました。利用者様のニーズに応えるために何が必要か、介護福祉士に求められている事柄はどんどん多くなってきています。専門職として必要な知識・技術をできるだけわかりやすく学生に伝え、共に学んでいきたいと思います。



保育学科 教員

坂口陽子

近年、保育士という存在が社会全体から必要とされ、求められる場所が増えています。そのような中、私自身がこれまで保育の現場で培ってきた様々な視点で、学生が幅広い分野の知識について理解を深め、「感じて　考えて　行動する力」が育つよう、丁寧により実践的に保育の楽しさ、やりがいを伝えていきたいと思います。



作業療法学科 教員

向井佑介

令和2年4月より作業療法学科教員として勤務させていただいております。専門学校 健祥会学園（旧徳島健祥会福祉専門学校）を卒業し、平成25年4月から7年間、主に生活期の現場で臨床経験を積んできました。作業療法士として、また医療・福祉に携わる職種として必要な知識を、自身の経験を踏まえながらお伝えしていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

■令和2年度 専門学校 健祥会学園　同窓会役員

会　長　舩越 稔（作業3期）
副会長　立石 広志（理学4期）・武田 英二（校長）
幹　事　木下 雄二（介護7期）・荒岡 優（介護14期）
　　内田 真理子（介護15期）・多田 裕介（保福1期）
　　竹内 大介（理学1期）・加藤 志帆（理学5期）
　　片岡 一誠（理学12期）
　　長谷部 有哉（作業5期）・武市 薫（作業9期）
監　事　船戸 毅（介護7期）・出葉 優花（保育1期）
事務局　小谷 盛子（専門学校 健祥会学園）
　　冨永 佳映（専門学校 健祥会学園）

編集後記

コロナ禍で世界が揺れた2020年。皆さんの職場でもさまざまな対応に追われたことと思います。同窓会にとっても何もかもが異例の年となりました。つながることが目的の会なのに、年に一度皆が集まる総会が書面となり、講演会も開けず、学科ごとの勉強会も大幅に規模を縮小せざるを得ませんでした。反面、つながりの大切さを痛感するとともに、人に向き合う私たちの仕事の重要性が再確認された年でもありました。

コロナの収束はまだまだ見通せませんが、コロナ禍中の今だからこそ、時代の困難に立ち向かい、社会の「盾」になる人財を育成するという、ロゴマークに込めた学園の決意を私たち同窓生も改めて胸に刻みたいと思います。必要なのは、誠意を込めて常に最善を尽くしていくこと。健康に留意して、皆で頑張りましょう。

私たちのつながりの証である同窓会会報、Will　vol.14をお届けします。制作にあたりご協力いただきました皆様方に心より感謝申し上げます。

事務局

社会福祉法人健祥会 専門学校
健祥会学園

専門学校 健祥会学園 同窓会会報 | ウィル

発行元　専門学校 健祥会学園同窓会　　発行日　2021 年 3 月 1 日
〒779-3105 徳島市国府町東高輪字天満 369-1　　TEL088-642-9666

不許複製